

教授 松井卓哉

専門分野

解剖生理学
薬理学
健康科学

学位・資格

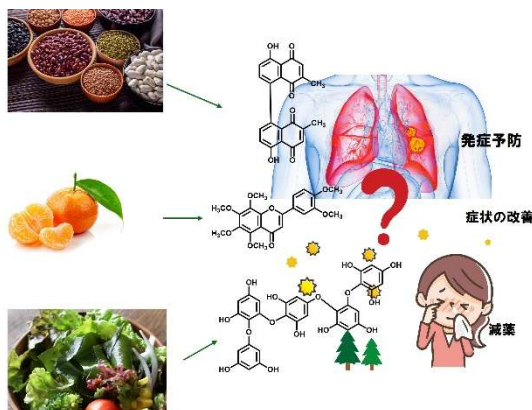
博士（医学）
薬剤師
生理学エディター

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

解剖生理および病態生理の専門分野は、人体の正常な構造・機能と異常の仕組みを明らかにし、社会の健康課題に直接関わっています。例えば、食品の摂取と体内での消化・吸収の理解は、栄養管理や疾病予防の基盤となります。また、アレルギーは免疫機能の過剰反応として病態生理的に説明され、食品表示や医療対応など社会的対策に結びついています。さらに、がんは細胞の異常増殖という病態生理の理解をもとに、予防・早期発見・治療法の開発が進められています。このように、解剖生理と病態生理の知見は、食品、アレルギー、がんといった身近な課題を通して社会と密接に結びついています。その一助として、ミカン科植物やマメ科植物などの天然資源からの抽出物や単離・構造決定した有機化合物のアレルギーやがんに対する生物学的効果の研究に取り組んでいます。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

天然資源から単離・構造決定した天然有機化合物の抗炎症作用

ミカン科植物は約2000種類、マメ科植物は約20000種ほど世界中に存在し、食品、医療、香料、農業など様々な分野で人間社会に関わりを持っています。そして古くから天然資源からの機能性成分の探索が行われています。これまでにミカン科植物やマメ科植物からポリメトキシフラボノイド、キサントン、カルバゾールアルカロイドなど多くの天然有機化合物を単離・構造決定し、抗アレルギー効果や抗腫瘍効果の細胞内機構の解析を試み、論文報告しております。岐阜県には様々な伝統的な植物資源を使った食文化が存在しておりますので、これらを研究材料として機能解析を行ってまいります。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

本当は利用できるのでは？

日本の食文化や地域ごとの違いに目を向け、各地に眠る未利用の食材に着目した研究を行います。これらの食材がもつ成分や機能を培養細胞を使って解析し、健康との関わりを探ることを目指します。伝統や地域の特色を大切にしながら、身近な視点で新たな食材の活用可能性を見出していく、学生にも取り組みやすい内容です。

